

2016 Vol.3

Hiroshima Institute of Technology

Architect



目次

会長挨拶	・・・ P.1
主任教授挨拶	・・・ P.2
平成 27 度事業報告	・・・ P.3
平成 28 年度事業計画	・・・ P.4
資格取得者紹介	・・・ P.5
学生研究紹介	・・・ P.6
平成 27 年度学生の研究業績	・・・ P.8
博士・修士論文題目／卒業研究・設計題目	・・・ P.10

会長挨拶

第5期学生部会会長

川本 樹哉 Tatsuya Kawamoto
(清水研究室) (Shimizu lab)



第4期学生部会会長

上石 裕也 Yuya Ueishi
(高松研究室) (Takamatsu lab)



この度上石前会長の後任として、広工大建築会学生部会会長に就任しました川本樹哉です。第5期目の会長を務めるにあたり、歴代の会長の活躍を模範とし、各種記念パーティや建築士・建築積算士等の資格取得支援といった、学生活動の支援を中心に一年間精一杯頑張りたいと思っております。至らない点多々あるとは思いますが、よろしくお願ひします。

さて、みなさんこの一年を振り返ってみてどのようなことがありましたか。今年度は、学生生活の中で最も充実した一年であると共に、大きく成長することができた一年でした。6月にゼミに配属されてから、就職活動に対し真剣に考えるようになりました。夏季休業中にインターンシップに参加し、建設業にさらに携わりたいと考えるようになりました。実習中には、普段では得る事のできない、充実した価値のある時間を過ごせたのではないかと考えています。それと同時に就職試験対策としてSPIの問題集を10冊以上こなしました。この期間は、これまでにないような、忙しい日々でした。今となっては、この日々があったからこそ、大きく成長できたのではないかと考えています。しかしながら、この成長は自身の力だけで成し得た事ではありません。協力して頂いた企業の皆様、学校教員の皆様、先輩方や仲間の存在が、私を支えてくれたからだと感じております。この経験を活かして、広工大建築会学生部会を良いものとしていけるように、日々精進して参りたいと思ひます。

今後とも、広工大建築会学生部会をより一層活性化したいと考えています。どうかご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

広工大建築会学生部会会長を前任しておりました上石です。私は一年間岩瀬先輩の後任として学生部会会長という重責を担う立場となりました。その間、学生部会としては、新入生歓迎パーティ、資格取得支援を目的とした一級、二級建築士模擬試験等を実施して、より一層活動を活発化してまいりました。私自身、会長に任命されることは大変喜ばしいことではありましたが、初めての経験という事もあり、相談役の先輩を始め、学生部会のメンバー、先生方の助言・協力を得て、職務を全うして参りました。現在の自分があるのは、先輩や友人の支えがあったためであり、本当に感謝しております。学生部会の更なる発展とまではなりませんでしたが、後輩達が伝統を引き継いで学生部会を更に発展させてくれることを期待しております。

さて、現在皆さんは何か全力で打ち込める趣味を持っていますでしょうか。私は一年前に友人に誘われたことをきっかけに将棋を始め、努力の末初段の認定状を頂きました。好きな事が出来る、趣味を持つというのはやはり大事なことです。年齢を重ねるにつれ、視野は広がり続け、何かにのめり込んだりする人の割合は減少傾向となります。しかし、趣味に没頭すると、それが本当に好きなものであれば、人は年齢に限らず何時間でも没頭できるようになるのです。趣味を見つけるのは大変だとそんな風に思ってしまう人もいるかも知れませんが、子供の時に好きだったことや、時間がなかったからやめてしまったこと等ありませんか。それらをまた始めるには気力も時間も必要です。しかし、エネルギーや時間を掛ければ掛けるほど、それによって得られるものは多く、人を成長させます。皆さんも自身のライフスタイルに刺激を与えてくれるような趣味を見つけてみてください。

主任教授挨拶



建築工学科 教授 首藤治久

平成 21 年 4 月 1 日から広島工業大学の建築工学科の一員として着任して、早いもので 5 年たちました。私は東京都と川を境にした埼玉県の川口市（かつては鋳物製造で栄え、現在は東京のベッドタウン）というところで生まれ、泥まみれというより赤錆まみれで育ちました。大学卒業後は建築設備の施工会社に 32 年間勤務し、そのうちの 15 年間は原子力関連施設の設備設計を行っていました。趣味はぶらぶらと一人で旅行することと、絵画鑑賞（特にフェルメール）です。映画もよく観ます。

研究テーマは空気調和設備に関することと環境工学ですが、都市防災の一環として BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）に関する調査研究にも着手しています。BCP とは危機管理手法の 1 つで、様々な災害が起こることは避けられないものと認識して、その災害による被害から事業や建物としての機能を、要求される期間内に復元させるためには今何をしなければならないかを計画するものです。この研究は米国の同時多発テロ以降盛んに研究が進められている分野です。

大学での主な担当講義は建築設備です。建築設備には室内の環境を維持する為の空気調和設備、飲料水の供給や使用した水を快適かつ衛生的に排水するための給排水・衛生設備、照明・コンセントや動力に必要な電気設備、エレベーターやエスカレーターなどの昇降設備、建物の安全性を維持する為の防災設備等、様々なものがありますが、全て人間生活を維持する為に欠くことのできないものばかりです。大学では主に空気調和設備と給排水・衛生設備に関する講義を行っています。空調設備は産業用としてもその果たす役割は大きく、製品の品櫃維持や効率向上などの経済的な生産活動の維持に欠くことのできないものとなっています。半導体や液晶製造のためのクリーンルーム、医薬品製造や高度医療に必要なバイオクリーンルームなどの非常に高い清浄度を維持することを目的とした空調技術などはその一例で

す。空調技術は、産業技術の発展とともに進化し続けてきました。新しい産業技術が生まれれば、それに必要な空調技術も創生されなければなりません。またこれからは産業技術だけでなく、宇宙空間や深海での生活にとって必要となる様々な空調設備や給排水・衛生設備が生まれてくるでしょう。

私は一般企業での勤務期間中に人間関係にも恵まれ、多くの技術的経験と幅広い知識を得ることができ、企業人として大変充実した生活を送ることができたと思っていますが、それでも幾度となく行き詰まり、挫折感を味わった経験があります。この時に力になってくれたのは、学生時代の友人たちでした。特に大学で出会った友人たちは、その後の進路もほとんどの者が建築関係の仕事に就いていましたので、共通の話題も多く、助言を受けるだけでなく時には励まされ時には叱咤されて、大変助けられました。

大学の 4 年間は存外短く、あっという間に過ぎて往きますが、様々な知識を獲得すると共に多くの人と出会い、卒業後の長い社会人生活を送る上での大きな糧を得る大事な時といえます。大学時代は長い人生の中で最も多感な時期であり、才能を開花させるための重要な期間といえます。大学 4 年間で可憐（あたら）無為に過ごさず、ぜひ充実した学生生活を送ってほしいと思います。



平成 26 年度後期・27 年度事業報告

1. 卒業記念パーティー

学生部会員の卒業・修了を祝して、学生部会主催の卒業記念パーティーを行った。

期 日：2015 年 3 月 21 日（土）13：30～15：30

会 場：広島工業大学 4 号館 1 階 アベベ食堂

内 容：学生部会の準備により、昼食をとりながら懇談



卒業記念パーティーの様子

2. 二級建築士実力試験

学部 3 年次生を対象とした二級建築士実力試験を実施した。

期 日：2015 年 3 月 23 日（月）10：00～17：00

会 場：広島工業大学 西 4 号館 301 号室

出席者：25 名

合格者：なし

3. 第四回学生部会総会ならびに懇親会

第四回学生部会総会および新入生歓迎パーティーを兼ねた懇親会を行った。

期 日：2015 年 5 月 15 日（金）17：00～18：30

会 場：広島工業大学 アベベ食堂

出席者：130 名

議 事：1) 2014 年度事業報告
2) 2015 年度役員について
3) 2015 年度事業計画（案）

4. 一級建築士実力試験

学部 4 年次生を対象とした一級建築士実力試験を実施した。

期 日：2015 年 8 月 24 日（月）9：00～17：00

会 場：広島工業大学 西 4 号館 301 号室

出席者：23 名

合格者：なし

5. 資格推奨制度

卒業記念パーティーおよび第四回学生部会総会にて、建築積算士の資格取得者の表彰を行った。

対象者：國井 翔平（二級建築士，高松研究室）	栗原 将平（建築積算士，高松研究室）
大田 友貴（建築積算士，高松研究室）	上石 裕也（建築積算士，高松研究室）
倉本 朝水（建築積算士，高松研究室）	清水 勝也（建築積算士，高松研究室）
増原 啓太（建築積算士，高松研究室）	有馬 樹生（建築積算士，福田研究室）
今村 佳奈（建築積算士，福田研究室）	

表彰日：2015 年 3 月 21 日（土），5 月 15 日（金）

6. 建築会賞

学業において優秀な成績を収めたことを認め、建築会賞を与えた。

対象者：岩瀬 貴信（高松研究室）

平成28年度事業計画

1. 学生部会総会ならびに懇親会（5月）

平成28年度学生部会総会を開催し、昨年度事業報告、今年度事業計画の公表を行う。総会後には、新入生歓迎パーティーを兼ねた懇親会を開催する。

2. 一級建築士実力試験（8月）

学部4年次生を対象とした一級建築士実力試験を実施する。合格者には表彰を行う。

3. 二級建築士実力試験（3月）

学部3年次生を対象とした二級建築士実力試験を実施する。合格者には表彰を行う。

4. 卒業記念パーティー（3月）

卒業式後に卒業記念パーティーを開催する。

5. 資格取得者表彰制度

二級建築士、建築積算士を取得した会員を、学生部会懇親会または卒業記念パーティーで表彰する。

6. 会報誌作成

2016年度の活動内容および行事等をまとめた会報誌を作成する。

資格取得者紹介

学生部会会員の資格試験合格者

建築積算士

勝部貴大（福田研究室 博士前期課程 1年）

奥井葉月（高松研究室 学部 3年）

杉美侑（高松研究室 学部 3年）

郷原良太（高松研究室 学部 3年）

資格試験合格者インタビュー

奥井 葉月 Hazuki Okui
(高松研究室) (Takamatsu lab)



2015年度に建築積算士の資格試験に挑戦し、合格しました。講義をしてくださった先生や先輩方のおかげです。本当に感謝しております。

私は3年生前期に横段隆弘先生、森川洋至先生に講義をして頂く「建築積算」を受講しました。講義では建築の生産活動に携わる技術者として必要となる建築積算の基本的な知識と技術について学習し、工事費の算出やコストと建物の機能・品質等について理解できるようになりました。また、講義を受講し試験に合格する事で「建築積算士捕」の資格を取得することも出来ました。建築積算士捕を取得していると、上位資格である「建築積算士」の1次試験が免除になります。更に、学生のうちから実務的な図面を見ながら数量を拾う事で、図面の読み方や、部材に関する取り付きなどを理解でき、将来仕事を行う上で非常に重要なことを学ぶことができました。私の研究室では大学院生や4年生の先輩方が建築積算士資格を取得しており、経験豊富な先輩方に毎年10月から翌年の1月の試験まで毎週土曜日に対策講座を開催して頂いています。最初の内は、

図面に書いてある情報を多面的に読み取るのが難しかったのですが、先輩の解説を聞きながら図面の読み方を学ぶだけではなく、専門用語や鉄筋の配置の意味、どうしてその材料が、なぜその本数や量が必要なのかといった事も理解できるようになりました。また、積算の勉強をしたことで、普段の講義でも前とは違う視点から考える事が出来るようになり一層理解が深まっている事を実感しています。建築積算士という資格を取得することで図面を読む力は確実に身に付きます。また、合否発表は3月初旬なので就職活動においても有利な武器になります。最初は積算が何の役に立つか具体的にはイメージできないと思います。ですが今では部材から構造的な事まで通して積算というのはどの分野でも必要な知識だということが実感できます。将来建築系の就職を考えている学生は積極的に資格取得を目指してみてください。

学生研究紹介

鉄骨製作コストを考慮した鉄骨骨組みの構造設計

その 1. 鉄骨製作コスト簡易評価への 3 次元オブジェクト CAD の活用と静的設計結果



Masato Nakayama 中山 昌人
(Shimizu lab) (清水研究室)

目的

現在、実務の鋼構造建物の構造設計の初期段階においては、鋼材単価に基づくコスト試算が一般的であるため、鋼材重量を軽減する設計が優先され、コスト削減のため、建築骨組重量最小化を目指した設計が行われることが多く、鉄骨製作コストの実情が反映されていない。そのような構造設計の方針では接合部が複雑になることで鉄骨製作コストが増大し、かえって全体の工事費が高くなってしまふことがある。以前、鉄骨製作コスト簡易評価式が提案されたが評価式の数値算出が複雑で手間がかかるため実務には普及していない。そのため、本研究ではセットバックのある鉄骨造 8 階建物を対象とし、鋼材重量軽減優先設計と鉄骨製作簡素化優先設計の 2 つの設計方針で設計を行う。そして、一貫構造計算ソフトのデータを 3 次元オブジェクト CAD に連動させ、主架構をモデル化し、レポート機能を利用して、簡易評価式で用いる数値算出の作業の省力化を行なうことで、簡易評価式の普及を目的とする。さらに、設計方針の違いが、鉄骨骨組重量、簡易評価式を用

いた製作コストと鋼材コストの合計、および構造性能に及ぼす影響を評価することを目的とする。

設計方針

鋼材重量軽減優先設計

柱サイズは 1 階から最上階まで統一せず、梁は X 方向、Y 方向共に梁せい、フランジ幅、フランジ厚、などを統一せず、様々なサイズの鋼材を使用する。

鉄骨製作簡素化優先設計

柱サイズは 1 階から最上階まで統一する。ただし板厚は変えてよいとする。梁は X 方向、Y 方向共に梁せいを統一し、フランジ幅、フランジ厚など変えてよいとする。

鉄骨製作コストの算出

図 1 に構造一貫計算ソフトのモデルを示す。図 2 に対象建物を 3 次元オブジェクト CAD を使用しモデル化したものを示す。図 3 には、仕口を拡大したものを示す。

3 次元オブジェクト CAD を使用することでダイアフラムやスプライスプレートを設定でき、正確な

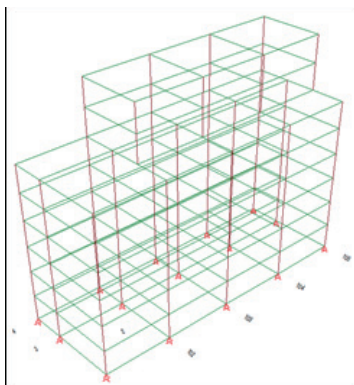


図 1 構造一貫計算ソフト

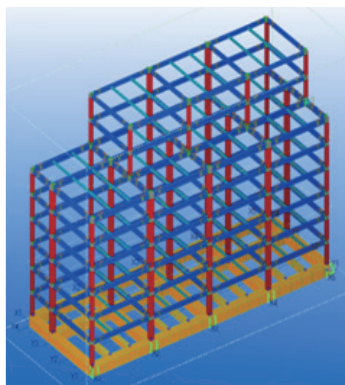


図 2 3次元オブジェクト CAD

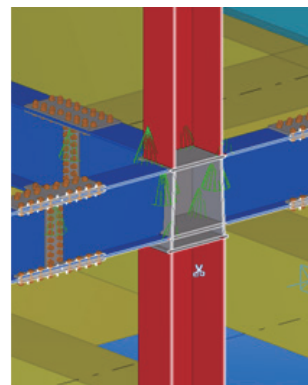


図 3 仕口拡大部

積算を行うことができる。

図4には、鋼材単価と合計コストを示す。鋼材単価が9万円/トン程度までは、鋼材重量低減設計より鉄骨製作簡素化優先設計の合計コストが少ない。鋼材単価が12万円/トンで、鋼材重量低減設計より鉄骨製作簡素化優先設計の合計コストは約1%の増額となる。

静的設計結果

図5に許容応力度設計時の層間変形角を示す。X方向では鉄骨製作簡素化設計がすべての階において変形が小さい。Y方向では1～3階まで鉄骨製作簡素化優先設計の変形が大きく、4～8階では鉄骨製作簡素化設計の方が変形が小さい。

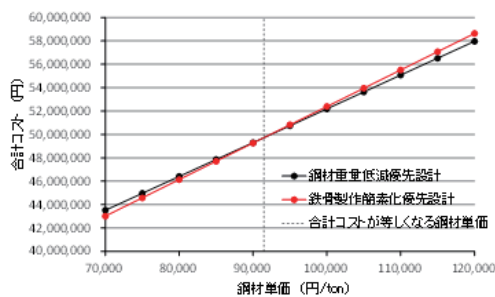
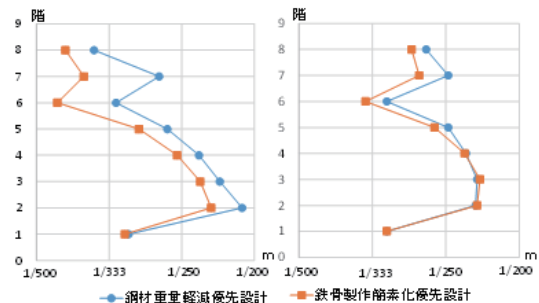


図4 合計コストと鋼材単価

まとめ

鉄骨製作コスト簡易評価式の数値算出の省力化を目的とした3次元オブジェクトCADの活用と、設計方針の違いによる構造性能の比較を目的として検討を行った。鉄骨製作コスト簡易評価の省力化については3次元オブジェクトCADの利用によって大幅に効果があったと考える。構造性能では層間変形角はX方向ですべての階において鉄骨製作簡素化優先設計が小さな変形となった。しかし、Y方向の低層部で鉄骨製作簡素化優先設計の変形が大きく、上階では鉄骨製作簡素化優先設計の方が変形は小さくなった。



X方向

Y方向

図5 層間変形角

平成27年度学生の研究業績

■ 査読付論文

日本建築学会構造系論文集

- ・ 景山朋定, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 國井翔平, 岩瀬貴信: 楔デバイスを用いたセルフセンタリング鉄骨架構の耐震性能に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第80巻, 第718号, pp.1941-1950, 2015.12
- ・ 小松真吾, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 多層非対称Z型NCブレース架構の地震応答低減に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第80巻, 第717号, pp.1755-1762, 2015.11

鋼構造論文集

- ・ 小松真吾, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 1層Z型NCブレース架構の地震応答性状に関する研究, 鋼構造論文集, 第22巻, 第88号, pp.43-53, 2015.12

■ 口頭発表

2015年度日本建築学会大会(関東)

2015年9月4日～6日,

於 東海大学湘南キャンパス

- ・ 景山朋定, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 國井翔平: デッキ合成スラブを有する楔デバイス付梁継手の載荷実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.611-612, 2015.9
- ・ 國井翔平, 景山朋定, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 楔デバイスを用いたセルフセンタリング鉄骨架構のエネルギー吸収性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1201-1202, 2015.9
- ・ 小松真吾, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 2層非対称Z型NCブレース架構の振動台実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1261-1262, 2015.9
- ・ 松下貴雄, 高松隆夫, 山西央朗, 石津祐二: ベースプレート水平変位拘束材に関する基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.645-646, 2015.9
- ・ 中山雅隆, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 小松真吾: 漸増変形性能を有するZ型NCブレース架

構の地震応答に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1199-1200, 2015.9

- ・ 深澤拓真, 高松隆夫, 山西央朗: 日の字補剛ブレース付ラーメン架構の復元力特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1069-1070, 2015.9
 - ・ 石津祐二, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 松下貴雄: 柱脚復元力特性が鉄骨ラーメン架構の地震応答性状に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.633-634, 2015.9
 - ・ 岩瀬貴信, 景山朋定, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 國井翔平: 楔デバイス付柱継手の載荷実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.659-660, 2015.9
 - ・ 栗原将平, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 小松真吾: 偏心を有する非対称Z型NCブレース鉄骨架構の地震応答解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.259-260, 2015.9
 - ・ 芹田高太郎, 清田誠良, 堀田和孝: 厨房用換気扇の設置状況が汚染物の適正捕集に与える影響に関する研究 その9 改良型背面換気扇の排捕集率, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.615-616, 2015.9
 - ・ 勝部貴大, 福田由美子: 公共施設のコンバージョンの要件に関する研究 - 広島県の学校建築における考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.417-418, 2015.9
 - ・ 貞末和史, KJU KJU NWE, 荒木秀夫: 低強度コンクリートSRC柱の力学特性に関する実験的研究 その1 せん断破壊する柱の実験計画, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1301-1302, 2015.9
 - ・ KJU KJU NWE, 貞末和史, 荒木秀夫: 低強度コンクリートSRC柱の力学特性に関する実験的研究 その2 実験結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1303-1304, 2015.9
- 日本建築学会中国支部研究発表会
2016年3月6日, 於 近畿大学工学部
- ・ 小松真吾, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 1層多スパン非対称Z型NCブレース架構の数値解析, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.297-300, 2016.3

- ・ 松下貴雄, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 石津祐二: 露出柱脚におけるベースプレート水平変位拘束材に関する基礎的研究, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.245-248, 2016.3
 - ・ 中山雅隆, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 小松真吾: 2層Z型NCブレース架構の振動台実験, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.301-304, 2016.3
 - ・ 石津祐二, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 松下貴雄: 柱脚復元力特性が鉄骨ラーメン架構の地震応答性状に与える影響, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.117-120, 2016.3
 - ・ 岩瀬貴信, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 景山朋定, 國井翔平: リブ補強した楔デバイス付柱継手の載荷実験, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.253-256, 2016.3
 - ・ 岩瀬貴信, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 藤本信介: H形鋼梁の圧縮側フランジにおける炭素繊維プレート補強に関する研究, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.329-332, 2016.3
 - ・ 栗原将平, 小松真吾, 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗: 偏心を有する非対称Z型NCブレース鉄骨架構の地震応答解析, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.309-312, 2016.3
 - ・ 瀬川優斗, 荒木秀夫: 既存RC建物から切り出した柱部材の耐震性能評価, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.189-192, 2016.3
 - ・ 垣内良登, 清水斉, 鬼丸貞友, 南健太郎: 広島市に建つ超高層免震建物における地震波記録 その1, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.133-136, 2016.3
 - ・ 中山昌人, 藤田雅己, 松本征士, 清水斉, 澤田樹一郎: 鉄骨製作コストを考慮した鉄骨骨組の構造設計 その1。鉄骨製作コスト簡易評価式への3次元オブジェクトCADの活用と静的設計結果, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.109-112, 2016.3
 - ・ KJU KJU NWE, 貞末和史, 荒木秀夫: 低強度コンクリートSRC部材の力学特性に関する実験的研究 (その2) せん断破壊する短柱の終局耐力, 日本建築学会中国支部研究報告集, 第39巻, pp.209-212, 2016.3
- 学内紀要
- ・ 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 小松真吾, 中山雅隆: 2層Z型NCブレース架構の振動台実験と数値解析, 広島工業大学紀要, 研究編, 第50巻, pp.19-26, 2016.2
 - ・ 高松隆夫, 山西央朗, 深澤拓真: 日の字補剛ブレース付架構の復元力特性に関する研究, 広島工業大学紀要, 研究編, 第50巻, pp.49-55, 2016.2
 - ・ 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 石津祐二: 柱脚復元力特性に着目した鉄骨ラーメン架構の地震応答解析, 広島工業大学紀要, 研究編, 第50巻, pp.41-47, 2016.2
 - ・ 高松隆夫, 玉井宏章, 景山朋定, 岩瀬貴信: 楔デバイス付柱継手を適用した架構の耐震性能, 広島工業大学紀要, 研究編, 第50巻, pp.33-40, 2016.2
 - ・ 高松隆夫, 玉井宏章, 山西央朗, 小松真吾, 栗原将平: 偏心を有する非対称Z型NCブレース架構の地震応答性状, 広島工業大学紀要, 研究編, 第50巻, pp.27-32, 2016.2

2015 年度博士論文題目

高松研究室

- ・楔デバイス付接合部を有する鋼構造架構の耐震性能に関する研究 景山 朋定

2015 年度修士論文題目

高松研究室

- ・Z型 NC ブレース架構の漸増変形性状と地震応答低減に関する研究 中山 雅隆
- ・日の字補剛ブレース付ラーメン架構の復元力特性に関する研究 深澤 拓真

2015 年度卒業研究・設計題目

岩井研究室

- ・VisualBasic による県産木材梁スパン表の作成と検証 河本 幸希
- ・木造二階建て洋館の耐震診断調査と常時微動計測 竹原 涼平
- ・GIS を利用した都市災害情報の分析 二井内雅治

岸田研究室

- ・西広島まさ土の斜面災害に対する単位体積重量の影響 柏崎 達夫
藤井遼太郎
- ・GIS 情報を用いた土石流災害発生斜面の危険度評価 中野 裕基
中迫 航
- ・まさ土を用いた人工地盤の液状化 ①過去の事例と危険性評価 前田 翔太
- ・まさ土を用いた人工地盤の液状化 ②液状化に対する意識調査 眞鍋 由祈
- ・液状化対策の地盤改良原理の複合効果 岩木 達也
佐藤 裕樹
- ・災害土砂・建設残土の処理と収容方法 大江 雄貴
中村 友哉

荒木研究室

- ・部材端部に開孔を有する RC 梁の耐震性能評価 桑原 栄幸
坂井 友哉
- ・既存建物から採取したコンクリートの力学的特性 小田 晃大
- ・既存建物から採取した RC 柱部材の耐震性能 伊名波 亮

貞末研究室

- ・複合応力を受ける傾斜型あと施工アンカーのせん断挙動に関する研究 桑重 貴至
宮田 翔平
- ・傾斜型頭付きスタッドのせん断強度に関する基礎的研究 小笹 恵梨
高橋 誠功
- ・低強度コンクリート SRC 柱のせん断強度に関する実験的研究 佃 真太郎
KJU KJU NWE
- ・せん断破壊する鉄骨コンクリート柱に関する非線形有限要素解析 山地 達哉

高松研究室

- ・エンドプレート板厚が楔デバイス付柱継手に与える影響 小原 慎悟
- ・2層 Z 型 NC ブレースの振動台実験 上石 裕也
- ・1層多スパン非対称 Z 型 NC ブレース架構の地震応答性状に関する数値解析 倉本 朝水
- ・日の字型断面補剛された H 形鋼圧縮材の載荷実験 清水 勝也
- ・ブレース軸力によって生じる柱脚せん断力を負担する水平変位拘束材に関する研究 戸川 雅之
- ・炭素繊維プレート補強に関する実験的研究 増原 啓太
- ・H 形鋼小梁の補強に関する研究 津森 隆幸

清田研究室

- ・広島県における住宅のエネルギー使用状況調査分析 秋山絵梨香
- ・広島県における住宅の省エネルギー調査分析 山下 雄也
- ・フラクタル日除けの気流特性に関する風洞実験 片山 翔瑛
神盛 智
永ノ間晃紀
三島 貴裕
水穴 健士
道廣 湧
- ・河川が市街地における夏季の気温形成に与える影響に関する調査 宮谷 幸太
木村 壮汰
- ・箱模型による建築壁面に付置される装置による空調負荷低減効果に関する研究 伊達 宏顕
川筋 崇弘
坂本 龍太

清水研究室

- ・ポータブル振動台の製作と軽量化に関する研究 川上紳之介
鶴谷 哲大
- ・広島工業大学 3 号館補強工事における鉄骨枠組ブレースの施工性に関する研究 岡本 直輝
佐々岡一興

- ・高力ボルト摩擦接合部の孔あけ加工方法が
はし抜け破断に与える影響に関する実験的研究 江尻 凌也
田淵 健也
- ・柱梁仕口の製作の複雑さを考慮したセットバックのある
鉄骨造 8 層建物の構造性能に関する研究 中山 昌人
藤田 雅己
- ・プラント業界における BIM の推進状況に関する研究 松本 征士
- ・文献調査と建築学会学術講演集キーワードの分析からみた
BIM への取り組みに関する研究 岡本 光永
- ・ガーデンガーデンサウスの 2013 年 4 月 13 日地震観測記録を
用いた振動特性に関する基礎的研究 小嶋 孝明
- ・伝達関数を用いたザ・広島タワーと広島市の地盤の振動特性に関する基礎的研究 垣内 良登
南 健太郎

川上研究室

- ・幼稚園児・小学生が好む建築物の色と形に関する調査研究 高島 沙季
山口 尋子
- ・連続体構造を想定した浮体構造物模型の波浪応答実験 山川 稿之
- ・剛体 - パネ系で構成される浮体構造物模型の波浪応答実験 森本 稜規
- ・風波を受ける浮体構造物模型の波浪応答実験 木村健太郎
- ・OWC 型簡易波力発電装置に関する実験的研究 元安 飛翔
- ・マリナを活用した災害時の海域と陸域のネットワーク構築に関する調査研究 佐々木弘樹
- ・多層多スパン構造物の剛性低下に起因する
固有振動数の変化に関する基礎的研究 大倉 和也
片桐 浩佑
- ・立体ラーメン構造物モデルの剛性低下に起因する
固有振動数の変化に関する基礎的研究 三家本理允
- ・建築用シール材の強度特性に関する実験的研究 角埜 紘一
- ・木造枠部の留め仕口形状に関する実験的研究 小坂 俊樹
- ・木造枠部の留めほぞ仕口形状に関する実験的研究 下石 芳裕
- ・木造枠部のほぞ仕口形状に関する実験的研究 今井 大地

首藤研究室

- ・室内気流の把握を目的とした模型実験と CFD 解析の比較研究 河原 隆太
福留 徹郎
橋村 則史
西村 直公
- ・室内温熱環境並びに光環境と知的生産性の相関に関する研究 松浦 健太
堂免 大地
北村 和貴
山藤 順一

・中小都市に対応した BCP 策定のための調査研究～廿日市市住民の実態調査～	田添 健太
	仁池 敦
	山田 真徳
・散水効果による温熱環境の改善に関する研究	遠部 良太
	宮部 駿也
・大規模空間における室内気温の垂直分布に関する研究	高石 大輔
	富山 皓太

坂本研究室

・ポーラスコンクリートの実施工における品質管理に関する基礎的研究	竹林 光一
	松尾 拓哉
・真空脱水コンクリートの中性化に関する基礎的研究	花田 晃典
	廣井 隆行

栗崎研究室

・生態回廊～消え行くため池を後世に～（卒業設計）	今西晋太郎
・呉市商店街の再開発（卒業設計）	大下 雅弘
・近代産業と地域の再生～未来へ向けての造船技術の伝承～（卒業設計）	木曾 貴洋
・公共建築と公共化建築の可能性～分散型市役所を核とした中心市街地活性化～（卒業設計）	田中 圭太
・都市の残余～岡山市の下水処理場の活用～（卒業設計）	露無 健太
・大地から広がる平和のかたち～図と地 / 過去と未来（卒業設計）	西村慎太郎
・あやをなす建築群～新たな国際交流拠点のかたち～（卒業設計）	新田 紫乃
・ある地域の看取り方～限界集落における廃校活用案～（卒業設計）	三木 孝文
・新たな土地にて瀬戸内を望む～広島国際展示場アネックス～（卒業設計）	山本 慧
・負の記憶を建築すること～広島土砂災害後に～（卒業設計）	福田 将也
・複合型サッカースタジアムによる地域活性化（卒業設計）	丸山 雄平

福田研究室

・園むすび	
- 高齢者施設と就学前教育・保育施設の融合に関する研究（卒業設計）	見山 恵美
・こどもを守る - 学童保育の場に関する研究（卒業設計）	高杉 一輝
・イクメンのまち はつかいち	
- 男性の育児参加に着目した子育て支援施設に関する研究（卒業研究）	酒屋 祐紀
・平和の架け橋 - 原爆養護施設の活用に関する研究（卒業設計）	手嶋 勇太
・自分らしく生きる島	
- 空き家を活用したターミナルケア施設に関する研究（卒業設計）	今村 佳奈
・「食と交流」のマーケット	
- 地方都市におけるスーパーマーケットの活性化に関する研究（卒業設計）	岡崎 純弥
・本のめぐる場 - 書籍の流通に着目した商店街活性化に関する研究（卒業研究）	星野 友也

- ・斜面でつながる
 - コミュニティ形成を促す集合住宅の構成に関する研究（卒業設計） 村田 隆成
- ・緑と路地のまち己斐
 - 地域性を活かした駅前区画整理事業に関する研究（卒業設計） 有馬 樹生
- ・乗り換えの街 - 交通結節点における商業施設再整備に関する研究（卒業設計） 高野 紘誌
- ・田舎のオアシス
 - 地方都市における交流の場としての駅に関する研究（卒業設計） 榎 一誠
- ・水辺の駅に集う
 - 「水の都ひろしま」における川の駅に関する研究（卒業設計） 三宅 勝

向山研究室

- ・砂丘の風景を伝える空間の研究（卒業設計） 小谷 莉加
- ・地方に拡散する放置竹林の整備に関する研究（卒業設計） 西川 悠太
- ・石巻市代替防災拠点計画 - 風景の記憶を紡ぐ - （卒業設計） 吉村 虹香
- ・地域産業を支援するシェアハウスの研究（卒業設計） 山本 裕典
- ・音を媒介とする地域交流の場の構築（卒業設計） 山本 梨奈
- ・たたら文化の継承に関する研究（卒業設計） 後藤 広大
- ・道後温泉街街並み再編計画（卒業設計） 横田 光星
- ・旧広島市民球場跡地再生計画（卒業設計） 佐竹 佑一



ご意見・ご要望は、こちらにお願い致します。

広工大建築会のホームページ <http://hitkenchikukai.com/>